



エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

平成24年5月24日

環境大臣 細野 豪志 殿


株式会社 資生堂

代表取締役社長

北川 久章

資生堂グループは、創業以来140年間、地球の恵みを価値づくりの源泉とし、
お客さまに美しさとすこやかさをお届けしてきました。

「一瞬も 一生も 美しく」というコーポレートメッセージのもと、

人も地球も美しく共生する持続可能な社会の実現を目指し、全社員をメンバーとする
 資生堂アースケアプロジェクトを活動母体として、以下の取り組みを進めてまいります。

1. 容器包装の3R (reduce, reuse, recycle)をはじめとする商品の環境対応を積極的に推進します。

- ① 当社独自の環境設計基準である「資生堂エコスタンダード」を全事業に拡大展開します。これに則って商品の環境対応度を点数化し、2013年度までに現行品の点数を上回るモノづくりを推進します。加えて調達、生産、物流、販売、廃棄まで含めたライフサイクル全体での環境負荷低減にも取り組みます。
- ② 限りある石油資源の節約、CO₂排出量削減をねらいに、2011年度より導入した植物由来ポリエチレンへの切り替えを積極的に進めます。2020年度までに国内のポリエチレンの70%以上を植物由来とし、また、ポリエチレン以外の植物由来樹脂も積極的に採用することで、樹脂全体の50%以上を植物由来にしていきます。国内に続き、海外でも順次植物由来樹脂へ切り替えていきます。
- ③ レフィル（詰め替え）の配置拡大や容器軽量化を進め、容器包装使用量を削減します。国内化粧品事業では、2020年度までにファンデーション、白粉、シャンプー・コンディショナーのジャンボサイズは100%、化粧水・乳液は70%以上の商品にレフィルを配置します。さらにスキンケアでは、透明樹脂ケースからバガス紙製ケースやシュリンク包装などへの切り替えを進め、容器全体の環境対応を進めます。

2. 価値づくりの源泉である地球の恵みの保全に積極的に取り組みます。

- ① 原料の調達から製造、物流、販売、お客さまのご使用、廃棄にいたるすべてのプロセスにおいて、生物多様性の保全（地球の恵みの保全）に配慮し、持続可能な資源の活用を目指します。
- ② 2010年よりRSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil：持続可能なパーム油のための円卓会議)に加盟し、持続可能なパーム油の利用について検討を進めています。
- ③ 長崎県五島列島での椿の植林・保全活動では、商品の原料である椿油の産地で社員自らが椿を守り育てる活動を行い、その実から再び高品質な椿油を採取し商品に配合するという、事業活動と一体となった取り組みを推進し、サステナブルな資源利用につなげます。
- ④ 「資生堂グループ・サプライヤー行動基準」に則った調達を推進し、お取引先さまとともに環境に取り組みます。

3. 社員の環境教育に取り組み、地球の恵みの保全に貢献する人材を育成します。

- ① 社員に対するイントラや会議などでの情報発信に留まらず、自然の中での体感を通じた環境教育を推進することで、当社の商品が地球の恵みを享受してつくられていることへの理解と地球の恵みを大切に思うマインドの醸成を促進します。
- ② 和歌山県の「資生堂 椿の森」植林・保全活動では、自然の摂理や生態系の営みを理解しながら、社員自らが椿の苗木を植林し、森を守り育てる活動を継続的に実施します。さらに、その体験を社内に波及させ、事業活動においても地球の恵みを大切に扱う人材を育成していきます。

4. 地球温暖化防止に向けた取り組みを積極的に推進します。

全事業所での取り組みを通じて、事業活動全体のCO₂排出量削減に取り組みます。
国内全事業所では、CO₂排出量を2020年度までに20%（2009年度比）削減します。

株式会社 資生堂は、上記の取り組みの進捗状況を確認し、環境省への報告ならびに、ウェブサイトなどによる公表を行ってまいります。

SHISEIDO